
パラレル少女・暁美ほむらちゃん

窪まり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

パラレル少女・暁美ほむらちゃん

【Nコード】

N4767Y

【作者名】

窪まり

【あらすじ】

パラレルワールドを遡航する少女、暁美ほむらの物語。

狂った世界をQBと一緒に旅する暁美ほむらは、もとの時間軸の見滝原市に戻るだろうか？

狂った時間軸（前書き）

魔獣と戦い続ける暁美ほむらは、QBと一緒に時間遡航してしまっ
た。

無数のパラレルワールドを旅する暁美ほむらは、もとの時間軸にも
どれるだろうか？

狂った時間軸

ある日、魔獣との戦いで、誤ってQBを捕まえたまま暁美ほむらは時間遡航してしまった。

そこは、のどかな農村地帯であった。人々の姿を見るとまるで江戸時代の様子だった。

「おもいきり過去に飛ばされてしまったわ。」

QB「きみが、ぼくといっしょに時間遡航をしてしまったからだ。元の世界に戻るのは、とても難しいと思うよ。」

ほむらは、ある村人に声をかけられた。

「あんた外人さんですか。けったいなかつこうしているからさあ。」

ほむら「今は何年、何月何日」

村人「えーと昇栄3年・・・」

空を見たら飛行機雲があり、夕方になれば、大きな星（人工衛星）が動いている。

明らかに現代である。歴史の歯車が狂った日本に来てしまったのである。

「鎖国して、今年で約430年だな。外国では、空飛ぶ鉄の塊が飛んでいるが。」

「外人さん。それにしても日本語上手だね。今夜泊まっていったらどうかね。」

「わたしは外国人ではありません。れっきとした名前があり、暁美ほむらと言います。」

Q B「現在の時間軸は、全能の女神・鹿目まどかが作った別の時間軸なんだ。何兆どおりの歴史があるから、元の世界に戻りたいなら、全能の女神・鹿目まどかに祈るしかないよ。」

狂った時間軸（後書き）

430年以上、鎖国した日本に飛ばされた暁美ほむらは、どうなるのだろうか？

新水戸黄門 その1（前書き）

見滝原市は、のどかな農村地帯で、まだ電気もガスもない文明レベルが低い状態。すなわち江戸時代のまま。為政者や山賊に苦しめられる農民がいる。

その時、正義の味方・新水戸黄門が来るが……。その正体とは。

新水戸黄門 その1

QBともに、別の時間軸に行ってしまった暁美ほむらは、現代的な服装をしているため、農村では「異人さん」として歓迎される。

見滝原市は、北見沢群見滝原村という地名になっており、村民の服装は江戸時代のままである。

村民「異人さん。どこから来たのですか？」

ほむら「お答えできないです。答えても理解できないでしょう。」

村民「それは、かなり遠い国からですか。」

別の村民「我が国は、鎖国して400年以上たつが、それと同時に外国から400年も文化が遅れている。外国の文明を受け入れれば、おれたちの生活もらくになるのに。」

暁美ほむらは、彼らにかまっている状態ではない。何とかしてQBと一緒に、もとの見滝沢市に戻らなければならぬと考えていたからである。

QB「もとの見滝原市に戻る確率は、数兆分の一だよ。ほむら。この村に住み着いたほうが良いかもしれないよ。ここだと魔獣との戦いもないから。」

ほむら「まどか……。何を考えているの……。」

QB「他の時間軸でも、鹿目まどかと同じ考えで、魔法少女になる

ために、全能の神になるのを選んだ他の少女がいるからじゃないかな。その折り合いで、現在の混乱した状態になったのだよ。ほむら。

「

村人は、異人さんだと思いこみ、それも14歳の少女だから、某国の侵略者の手先だとは思わず、見滝原村を案内した。現在の時間軸では、高層ビルが建ち並でいた見滝原市は、別の時間軸では、まだわらぶき屋根の農家がぼつんとあり、のどかな農地が延々と続く。

「異人さん。ここが今から100年前にロシアという国から救った我が国の救世主の銅像だよ。」

いまから100年前に、ロシア帝国が軍事力で鎖国している日本に侵略から守った魔法少女がいた。

江戸時代の習慣では、銅像をたてる習慣がないが、特例として日本の救世主の銅像があった。かつては日本版ジャンヌ・ダルクが存在した。幕府に近代兵器を外国から輸入するのではなく、魔法の力でロシアの艦隊を一瞬で滅ぼし、そしてロシア帝国を分裂させた、超ド級の魔法少女がいた。

ロシア帝国は壊滅し、現在のロシア・シベリア地方の半分がアメリカ合衆国や中国の植民地になり、さまざまな国がパイを分けるかのように領土を分断させた。

QB「一つの巨大帝国を滅ぼすほどの、超ド級・魔法少女もいたのか。」

ほむら「巨大帝国を滅ぼすほどの超ド級・魔法少女がいれば、何兆どおりの時間軸から、一人や二人くらい、まどかなみの魔法少女がいてもおかしくないわ。」

QB「あくまでも、この宇宙だった全能の神は、まどかだけど、別の宇宙では、まどかに準じた魔法少女もいてもおかしくないよ。」

新水戸黄門 その1（後書き）

今から100年前にロシア帝国を滅ぼした超ド級の魔法少女がいた。鹿目まどかと同じことを考えて、全能の神になった魔法少女も何人もいたはずである。時間逆航者である、暁美ほむらは、混乱した宇宙にQBとともに旅たつ。

新水戸黄門 その2（前書き）

水戸光圀の子孫は正義の味方なのか・・・？
悪質な山賊たちに襲われる農民を助ける水戸光圀の子孫の正体とは。

新水戸黄門 その2

暁美ほむらとQBがパラレルワールドに入り込んだのは、様々な全能の女神たちの時間軸が入り交じった結果である。暁美ほむらが時間遡航をする、時空が混乱した状態へと陥ってしまい、歴史の歯車が狂った世界に行ってしまう。

農民「最近、山賊が頻繁に現れては、おれたちが作った作物が盗まれるだよ。」

別の農民「数年に一度、山賊が謎の死を遂げる時、娘（魔法少女）たちが必ず一人、神隠しに会うのだよ。」（村を救いたいために、魔法少女になった少女が犠牲になるが）

その時、山賊が現れ「お前ら、命が欲しければ、米を出せ」と、一人の農民のど元に刃物を突きつけた。

農民「米がなければ、おれたち年貢を納めることができなくなるだよ。」

山賊「そんなこと、知ったことか。でないとめんこい娘を一人いただくか。」

その時、ある老人と二人の若者が現れた。

「何やっているのだ！」と老人が山賊に向かって叫んだ。

「うるせい。このジジい！」

「助さん、かくさん。この山賊たちをこらしめなさい」

数人の山賊と戦ったが、山賊たちのほうが強かった。

「なんだ、全然、弱いじゃないか。では年貢にだす米をいただくか。」

山賊たちは、農民たちが作った年貢米を持っていこうとした時。

老人は「これが見えぬか。」

山賊「ただの印籠じゃないか。それがどうなんだ。」

老人「だから、この印籠は・・・。」

山賊「そんなこと知らん。では、年貢米を持っていくぞ」と、年貢米を車にのせて山賊たちは、去っていった。

その後、藩の代官の手下たち馬に乗ってやってきた。

「おまえたち年貢米はどうした」

農民「それが山賊たちに盗まれてしまつて。」

「言い訳を言うな！それでは金ねのものをもらつていくぞ・いなかつたなら若い娘たちをもらつていくぞ。それが嫌なら拷問だぞ。わかつたか。」

農家の奥に、QBと暁美はむらは、潜んで、それらの様子を聞き、

「あまりにも酷い時代だわ。」

QB「どんなに酷くても、正義の味方として干渉行為をしていけな
い。魔法の力を使えば、それだけソウルジェムの濁りが酷くなり、
命に関わるよ。ぼくたちも元の時間軸に戻る確率が低くなるから。」

新水戸黄門 その2（後書き）

だが、本来の水戸光圀の子孫は、そんなに弱いのか？
彼らの本来の力とは。

新水戸黄門 その3（前書き）

ついに海外製近代兵器を出す水戸黄門の子孫。
彼らが本気を出せば、どんな敵もかなわない。
支援部隊が到着するが・・・。

新水戸黄門 その3

水戸光圀の子孫たち3人は怪我をして倒れていて、村人が助けに行った。

「じいさん。大丈夫ですか？」

「大丈夫だ。」

「でもキズがあるから、今夜は、村にとまってくれないか。」

「今日は、お客が一気に増えたな。」

「あまり美味しい飯は出せないが・・・。」

「異人さん。もう大丈夫から出てきなさい。」

暁美ほむらは民家の奥から出てきた。
心の中では「私が魔法少女になれば、あんな山賊や藩の手下など簡単に片付けられるのに」と思った。

QBは「この世界は、まどかが作り出した、もう一つの歴史の一つなんだ。君が存在できる見滝沢市に至までの歴史になる確率は、数兆分の一なんだ。」

その言葉を聞いた、暁美ほむらは、少し鬱気分になった。

「全宇宙の時間軸が混乱しているのね」

夜も遅くなり、ようやく夕飯が食べられるようになった。

「申し訳ないが、今夜は、こんなものしかだせなくてすみませんです。」

「いいえ、おかまえなく。」

食べてみれば、まずい食品だった。

「どうした。異人さん。元気ないようだけど。」

「なんでもないです。」

暁美ほむらは、内心、元の世界に戻るのかが気になってしかたなかった。

QB「もとの見滝原市よりも、もっと素晴らしい世界に行けるかも知れないよ。元気だしてよ。」

そのとき水戸光圀の子孫である老人は、村人の視線がないのを確認してランシーバーを取り出した。

『ジューツ プッシュ！』

「わしだが、早朝、見滝原村へ援護をたのむ。」

『了解しました。今から行けばジープで、支援できます。』

「たのんだぞ。」

で、光圀の子孫である老人は、村人に質問した。

「最近の村の状態は？」

「村の娘が神隠しにあつて、そうしたら、旅している悪質な浪人や、山賊の変死体があつて、その死体から、内蔵だけが抜き取られているのだよ。傷跡なく内臓が抜き取られているのだよ。」

「それで。」

「やたらと年貢米が余計に取られるし、娘っこを勝手にもっていかれるし、このままだと、この村も滅びるかも知れない。」

光圀の子孫「さっき見たけど、洋風のかっこうをした若い女性がいけど、まさか異人をかくまっていらないだろうか？」

「そ、そんなこと知らないだよ。」

「本当か！」

「我が国の鎖国政策を破ったものは、はりつけのうえ火破りの刑になることを知らぬのか？」

「目の錯覚ではないですか。へへへへ・・・。」

「それなら良いが。」

「で、実は一揆を起こそうと思うのだよ。あまりにも年貢の取り立てが酷いものだからさ。」

「ほほん。（なるほど）」と光圀の和服の中にあるカセットテープレコーダーの録音スイッチを入れた。

農民は疑うことを知らないから、光圀の子孫に対して、村の中に武装していることをつい言ってしまった。それを録音した。

謀反を起こそうとする証拠として、村人の会話を録音した。

暁美ほむらは、久しぶりにリアルな時間帯に寝ようとするが、周囲の音が気になって眠れない。

時間停止の魔法を使えば、1秒以内に8時間睡眠ができるが、魔法をなるべく使わないようにするためである。（時間停止の魔法を使えば、全く音が聞こえないから熟睡できるのである。）

「ああっ！ねむれない。」

数時間たっても眠れない。

時間停止の魔法を使おうとする時に、空が明るくなり始めた。

「一睡もできなかった。」 暁美ほむらが睡眠のために時間停止の魔法を使おうと思った時に、自動車の音がした。

「文明が遅れた世界でも自動車があるのね。」

それは、ジープに乗ってきた侍たちだった。

外から話し声が聞こえた。

『ただいま到着しました。』

光圀の子孫『では、山賊刈りでもしようではないか。このわしを怒らせたらどうなるか知らしめてやろうではないか。』

『山賊どものありかは、どこにあるのか？』

『ついでに、異人をかくまっている可能性もある。また、この村でも一揆を起こす危険性がある。危険分子は全て抹殺せよ。』

侍たち『了解しました。』

『これが村人たちの会話を録音したテープだ。』とカセットテープを侍たちに渡した。

もう一台のジープが来た。

暁美ほむらはQ・Bに質問した。

「ちらつと遠くから聞いたけど、この村にも魔女がいるのね。」

QB「もしこの村に魔女がいれば、君の濁りかけてきたソウルジェムを浄化できるかもしれないね。この宇宙では魔女がいるからグリースシールドが得られるかも知れない。全宇宙がそのものが混乱しているから、いつ別の世界に行くか、ぼくにもわからないよ。」

水戸光圀の子孫は実は、日本国の秘密警察官であつた。
日本中のあちらこちらの村を旅する商人のふりをして、不穏な動きがないか、調査しているのである。

新水戸黄門 その3（後書き）

水戸光圀の子孫は実は、幕府の秘密警察管であつた。

日本中各地を旅して、村人の不満を聞き、不満分子を見つけ出すのが彼の任務である。

新水戸黄門 その4（前書き）

ついに見滝原村で乱闘が始まる。

そして時間遡航を行い、別の歴史へと旅たつ。

新水戸黄門 その4

腕時計をみる侍は、戦闘の準備に取りかかった。

ジープから、無人偵察機を放出し山賊たちの居場所を突き止めた。

日の出とともに、山賊たちの居場所にミサイルを発射する。

『ドッシン！！』という身体をゆさぶるような音が村全体に響いた。

それが何度も繰り返される。

山は火に包まれた。

村人は起きだし何が起きたか把握できなかった。

「山が燃えている！」と叫んだ。
村中がパニックに陥った。

近代兵器と丁髷の侍とは、相性が悪いが、それを見まもるQBと曉美ほむらがいた。

ほむら「村びとたちの生活は江戸時代のままなのに、使われる兵器は現代のものなのね。」

QB「なにがあっても無駄に魔法を使っではいけない」

QBは曉美ほむらの肩にのり、その場から逃げだそうとした。

侍たちは叫んだ。「あつ！異人だ！」「追いかける！」「誰だ！異人をかくまう奴は！」
侍たちは村人をとらえた。

村から逃げ出す時、曉美ほむらは考えた。
ほむら「もし私が時間遡航したら、村人を救えるかしら。」
QB「時間遡航の魔法を使えば、どこ这个世界に行くかわからない。
今、使えるのは時間停止の魔法だけだ。下手に魔法を使えば、別の歴史に、さ迷うことになる。」

ほむら「私の責任かしら。」「全能の女神になった、まどかはいつ
たい何を考えているの。まどか助けて」と心の中で叫んだ。

お昼になり、村人の男性たちは、ほとんど囚人になり、囚人護送車に連れて行かれた。
それは現代と江戸時代が混じり合った世界であり、見た感じは似合わない異様な風景だった。

山賊たちを滅ぼし、謀反を起こそうとする農民たちを捕まえて水戸光圀の子孫は「かっかっか」と笑った。「助さん。かくさんやら。怪我はどうかな。」

二人は「酒を飲んで騒げば、治りも早いです。」と答えた。

で水戸光圀の子孫はトランシーバーを使い藩の手下に連絡した。

「あー。わしだが村に来てくれ。今日は宴会を開くぞ。」と水戸光圀は酒を飲みながら、トランシーバーで「ついでに酒も料理もトラツクで運んでくれ。」と言った。

村人の子どもたち母親たちは泣き叫んだ。

それを見た暁美ほむらは、我慢できなくなりQBをつれて時間遡航の魔法を使つて村人たちを助けようとした。

- - - - -

気がついたら昭和初期の風景似た世界にいた。

QB「これは、どうみても戦時中の日本の風景だわ。」裸電球の街灯が点りはじめ、暁美ほむらの姿を見る人がいた。

その時に、ある若い青年から声をかけられた。

「不思議な服装をしてるね。女性はみんなもんぺか着物なんだ。」

「なんか意味ありなんだね。」

「日本は戦争に勝つてアメリカの西半分を植民地にしたが、もしかしたら反体制派ではないか。」

「君が西洋かぶれの服を着るなんてなんて勇氣がいるのか。もしかして民主同盟のシンパなのか？」

暁美ほむらは急に言われても、何のことなのか理解できなかった。頭で理解できたことは、ナチスと大日本帝国が勝利した世界に来てしまったことである。

「とにかく家でかくまうから、当分の間、家にいなさい。」

言われるがままに人通りがない場所を通り、人目がないところをとり、いかにも昭和時代と思える民家に案内された。

家の中に入ると、昭和時代を思わせる四つ足の白黒テレビがあり、テレビにはチャンネルがないのである。某公共放送のチャンネルしか受信できないのである。

テレビを観るとナチスの後継者の演説があり、ドイツ帝国はシュベリアからアラスカ、カナダの西半分以上を領土とした。

比較的文明が進んだ世界にたどり着いた。

若い青年は「民主同盟」という反体制派の組織に属しているのである。

若い青年は質問した「君はどうしてこんな服装をしているのだ。それからどこから来たの？」

暁美ほむら「言っても理解できないし、信じてもらえないと思うのです。」

青年「黙秘なんだね」

ほむら「いいえ！本当のことを言うと、宇宙の時間軸が狂い、あらゆる歴史が入り交じった世界へ放浪するようになってしまったの。」

青年は大笑いした。「まるで科学小説みたいだ。君みたいな少女はおもしろい！気に入った。その服装では怪しまれるから、着物かもんぺを着るべきだ。」

戦争に勝った日本は軍国主義一色になったが、生活水準は昭和30年レベルである。

食事を出してもらった。こんなものしかないけど、と言って「卵かけご飯」とお味噌汁をいただいた。

お腹が空いているので、その質素な夕飯がとても美味しく感じた。

新水戸黄門 その4（後書き）

暁美ほむらとQBは、ナチスと大日本帝国が勝利した世界にたどりついてしまった。

軍国日本編 その1（前書き）

アメリカとの戦争に勝った日本に来てしまった暁美ほむらとQ.B。
戦後、数十年たち平和な時代が長く続いた。
人々は自由を手に入れようと考えた。

軍国日本編 その1

四本足の白黒テレビからは軍歌や政治的宣伝などが流され続け、午後11時に自動的にテレビの映像が消える電源が切れるようにできている。

ポリウム調整しかつまみがないので電源を落とせば、電話回線で警察署に通報される仕組みになっている。自分の判断でテレビのスイッチを切ってはいけない法律がある。

午後11時30分

「つまらない番組ばかりだ！中立国のテレビなら放送局がたくさんありテレビを観る選択肢があるものだ。」と青年はつぶやいた。

静になったところで、青年が言った。

「もう遅くなったから、今夜は泊まらないか。」

ほむら「別に行くところがないから・・・。」

「こんなぼろくさい民家に男女二人ただけど。別にぼくは変な気持ちで言っているのではないだよ。どうせ君は、今夜泊まる場所もないことだし。それに変な気分になれない。」

「そうですか。おかまえなく」

「なにもしないから。ぼくは台所で寝るから。」

「もし日本が戦争に負けたら、今よりはまともな国になっていただろう。それがどんなに日本に不利な条件をつきつけられても。」

「そうね。」

「それでは、今から寝るから、おやすみ。」

「おやすみ。」

翌朝、朝6時 町内会の集会があるため、青年は集会に集まった。

「臣民諸君。今日も我が国の繁栄のために仕事を頑張ろうではないか。通勤の前に、準備体操を！」

毎朝、町内の隣組どおしが相互監視を行い、不穏な動きがないか確認していた。

「もし反体制派の人間がいたら、本人だけではなくその関係者そのものも人体実験の刑に処することを忘れないように。今年は去年と比較して反体制派の検挙率は……。」というふうに、政治的な話が毎日行われていた。

青年は心の中で「バカらしい。何が『今日も我が国のために』だよ。何とかして日本をまともな国に変えたい。」

青年は、曉美ほむらともつと話をしたいために電話で欠勤の連絡をした。

「今日は風邪で休んだことにするから。それは君とゆっくり話したいから。」

「別に変な気はないけどさ。」

「そうですか。」と静に答えた。

「昨夜の話は本当なのかね。真面目な話だけど。」

「本当よ。」

「海外の情報によると、不可思議な現象もたまにあるようだし。」

「君がいた世界は、どんな環境なんだ。なぜ、ここに来たのか？」

「それは・・・。」

青年が暁美ほむらの話を理解するまで昼の12時までかかってしまった。

「信じられない。こんな娘と出会っなんて奇跡だよ。」

「では、証拠をお見せします。」

時間停止の魔法を使った。

青年から見れば瞬時に目の前から消えたように見えた。

「本当だ。これが魔法なのか。」

でも、この髪型と服装では外出すると怪しまれる。

暁美ほむらは、久しぶりに髪型を昔のような形に結んだ。

青年は電話をした。

「もしもし、いつもお世話になっています。今日は、ちょっとおもしろい話がいっぱいだったので。」

芋づるの24番地の3で、芋虫が笑ってでたのですよ。では、後ほど。」『ガチャン!』

と黒電話の受話器を置いた。

青年がわざと訳が解らない話をしたのは、憲兵から抜き取り式に盗聴される恐れがあった為である。

要するに暗号によるメッセージを送ったのである。

数十分後にドアを叩く音がした。

「どちらサマですか？」

と青年が訪ねた。

そして合い言葉を言った。「新しい塀ができたのです。へえ。」

と青年が言えば、「おバカな大阪芸人。」と答え、ドアを開けた。

40代の女性が二人来た。

青年は、どうせ魔法少女が時空の歪みからパラレルワールドから来たことを話しても誰も理解できないので、魔法少女のことは隠し、身元不明で反体制の女子中学生が家に訪れた子とを告げた。

40代の女性は、台所で「その家で娘は、私たちの思想に共感しているのね。でも、最近の特高も狡猾になっているから気をつけないと行けないわよ。平和な時代が数十年続いて、民主化運動も年々、増加していることだし。その分、政府も恐れているのよ。日本中、内地、外地がまわらず民主化運動が活発になっているから、こんな田舎の町まで、特高が目をつけるとは思わないけど。十分、気おつけるには超したことはないけどね。」

40代の女性たち二人は、奥の部屋に入って暁美ほむらを見た。

「あら、かわいいこちゃん。服装も斬新で、まるでかつて（戦前）のモガ（モダンガール）みたい。」と言った。

「この子には着替えがないから、もんぺと着物を分けて欲しいのだ。この恰好のままだと怪しまれるから。」

暁美ほむらは戦時中のことを知らないから、なんてダサイ服装なんだろうかと思った。

軍国日本編 その1（後書き）

まるで戦時下の日本にいるような環境に陥ってしまった、曉美ほむら。

戦争に勝った日本政府の狡猾な企みとは？

軍国日本編 その2（前書き）

民主同盟の青年と出会い、軍国主義国家の片隅にある街、見滝原市で、暁美ほむらは仕事を紹介された。暁美ほむらは所持金を持っているが、日本国の紙幣が使えないからである。

日本国銀行券を民主同盟の青年に見せ、ますます別の世界から来たことを確信した。

軍国日本編 その2

暁美ほむらは、久しぶりに三つ編みの髪型にもどし、ダサイと思えるもんぺ姿で外出した。

長年平和が続いても日本は、まだ発展途上国状態であり、進歩しているのは軍事技術だけであった。

街を歩けば自動車が少なく、道路で遊ぶ子どもたちが多くいた。満員の路面電車走り回っていた。

その代わり、超高速で飛行する国産ジェット戦闘機が頻繁に飛び、軍用車両が街の道路を走り続けた。

町中至る所に、監視カメラが設置されていた。

白人の外国人が、日本語学校に通う姿がみられた。世界は英語が標準語ではなくドイツ語と日本語が世界共通語になっているからである。

映画館が建ち並ぶ場所に行くと、「ナチスを侮辱した喜劇役者チャップリンの最後（残酷描写あり!）」というドキュメンタリー作品が上映されていた。

たどり着いたのが、とても大きな家（ビジネス旅館）であり、そこで家事手伝いをして週給でお金をもらうように青年は話した。その大きな家の女将さんも日本は民主化するべきだと思い民主同盟に入党していた。

暁美ほむらは青年に一万円札を見せた「これが、私がいた世界のお金です。よく見てください。」

「こんなに精密な印刷ができるなんて凄い！たしか君がいた世界では日本は戦争に負けたのだね。それだけの印刷技術があるなんて・・・」

「青年は一万円札をみて驚いた。」

「もし日本が戦争に負けていれば、今よりも自由で豊かな環境になったのに。なぜ日本とドイツは戦争に勝ったのか・・・。」

暁美ほむらは、年齢も16歳と言うことにしてビジネス旅館のお手伝いさんの仕事をするようになった。

その時、QBは「ほむら。あまり人を信じるのはよくないよ。この

世界の人間はかなり狡猾なんだ。十分気おつけえてよ。」と念を押された。

軍国日本編 その2（後書き）

どこの世界に行ってもお金が必要なので、曉美ほむらは初めて仕事をすることになる。その後は・・・。

なるべく読みやすい文章にするために、修正する場合があります。これからも、よろしくお願いいたします。

軍国日本編 その3 (前書き)

比較的裕福な家庭に案内された暁美ほむらは、その家の女将さんと面接を受ける。女将さんも民主同盟の党員である。

軍国日本編 その3

「失礼します。」とガラッとドアを開けたら、50代くらいの女性が出て来た。

どうやら女将さんらしいのである。ビジネス旅館を経営しており、非合法政治結社・民主同盟の見滝原市支部の資金は、そこから運営されているらしい。

暁美ほむらは、玄関の近くの居間にいさせて、青年と女将さんは、奥の部屋に行った。

青年「実はこの子を、一時的でも良いから雇って欲しいのです。お願いいたします。」

女将「でも、身元不明のこんなで雇うなんて、ちょっと・・・。」と困惑していた。

青年「実は昨日の夕方、とてもモダンな恰好をしていたのですから勇気を出して声をかけたら、ちょっと訳ありなんです。お金がないと実家にも帰れないし。」

女将「支部長のあなたがいうなら、雇っても良いかも。でも万が一、

政府のスパイだったら私たち人体実験の刑に処せられるから十分気おつけ多方が良いですね。」

青年「確かに政府のやり方は年々、狡猾になってきた。でも、ぼくの考えでは、どう考えても政府のスパイではないと思うのだ。」

女将「何を根拠に？」

青年「実はこのこは不思議な力を持っているのだよ。」

女将「それじゃ、よけい危ないじゃないの！」

青年「何と説明すれば良いのかな。『例の超能力（魔法）とやらの話をして信じてもらえないし・・・』とにかく身の安全は保証できるから、もし万が一の場合は・・・。」

と、あるものを見せた。

女将「そこまで言うなら雇ってあげても良いわ。」

青年「ありがとう。」

青年は、女将に見せた、あるものを使うことは、まずあり得ないだろうと思った。

それは、暁美ほむらは青年が生まれ育った別世界から来た人間なんだから、どう考えても政府の手下とは考えにくいのである。

話し合いが終わり、玄関の近くの居間にいる暁美ほむらに青年が声

をかけた。

女将「まあ、かわいい娘。この椅子に座ってちょうだい。」

暁美ほむらが椅子に座り、面接が始まった。

女将「仕事の内容は主に掃除で、週給が・・・」

一応、ビジネス旅館で泊まり込みの仕事をすることになることになった。

軍国日本編 その3 (後書き)

軍国主義社会でお金を得る事ができるようになった暁美ほむら。
また逮捕された反体制派への人体実験の刑とは。

次回に続く。

軍国日本編 その4（前書き）

ナチスを侮辱した米国の喜劇役者チャールズ・チャップリンの断末魔とは？

政治犯への人体実験とは？

日本が戦争に勝った世界情勢を書き込みます。

軍国日本編 その4

暁美ほむらは、週に一度の休日に映画を見に行く。

QBの姿は誰にも見えない。

三つ編みの髪型と眼鏡をして町を出歩いた。青年は、そのドキュメンタリー映画を見に行く義務がある。

青年「町内会で映画鑑賞・義務券をもらってしまった。今週中に見ないと罰金の刑にさせられる。バカらしい。どうせ政府のプロパガンダなど押しつけられて迷惑なんだよ。」

映画は誰かを連れて行くと、3割安くなるしくみになり青年と一緒に暁美ほむらと映画を見に行った。市が指定した映画を観るように義務つけられるのである。

映画館は西暦2010年を過ぎた世の中になっても、古くさい設備であり、いかにも昭和の雰囲気漂う。はじめにニュース映画があり、多くの政治犯が捕まり人体事件の刑に処せられるのを見せつけられた。それは目を覆いたくなるような映像であり、すなわち脳に電極を埋め込み、人間そのものをロボットにする実験である。それによって強制的に政府に対して忠実になる。

その後の映像とは、ユダヤ人たちが救命ボートに乗り、老若男女幼い子どもを含めて10人が飛行機の機関銃で打たれて死ぬところである。そして多くの拍手があった。

必死な形相で海の中を泳ぎながら逃げるユダヤ人を多くの観客が笑いながら見ていた。

青年「なんと残酷なことをしているのだ。これが人間がやることなのか・・・。」と小さな声でつぶやいた。

そして国歌が流れ、全員が起立し、国家を合唱した。

それから某映画会社のマークが出た時、大音響の音楽が流れ、「ナチスを侮辱した喜劇俳優チャップリンの最後」という映画が始まった。

米国・英国の連合軍が敗北した1945年4月、米国の喜劇俳優・チャールズ・チャップリンは「独裁者」という映画を制作し、ナチスとヒトラーを侮辱した罪のために、南米の山奥に逃げたが、1950年10月に捕まり、ドイツ兵数名からリンチされ半殺し状態になり、ドイツに連れて行かれ裁判を受ける。最後には銃殺刑の刑に処せられた。そのような内容のドキュメンタリー映画であった。

米国内にあるチャップリンの映画フィルムは全て焼かれる場面で幕を閉じた。

ナチスドイツと大日本帝国が勝利した後の世界とは、超大国が二つ存在しまるで地球を二つの国が分けた状態であった。多くの国は、枢軸国の勝利により、スイスやスエーデンなど極一部の中立国は民

主義国家とし機能しているが、ほとんどの開発途上国は、そのまま連合国の植民地が日本とドイツの植民地になり、そして、ナチスドイツは西はスペインから東はカナダ西半分までの領土を抱えた超大国になっていた。

北米・欧州でも、いまだに血なまぐさいレジスタンスとの銃撃戦が数十年も続いている。

軍国日本編 その4（後書き）

ここまで、読んでくださってありがとうございます。

それから政治的意味はなく、前半部分は某ディストピア小説のパロディですので、ご了承くださいます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4767y/>

パラレル少女・暁美ほむらちゃん

2011年11月20日20時55分発行